

様生小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 少人数による個に応じた学習の充実を図る。
- 言語力を高める学習の充実を図る。
- 家庭と連携し家庭学習習慣の確立を図る。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
近藤 猛恭	校長 総括：石丸 秀樹 教頭 総括補佐(3年担当)：吉田 資継 教諭(1・2年担当)：大西 真人 教諭(4年担当)：近藤 猛恭 講師(5・6年担当)：川根 明日泰 養護助教諭：小西代里美

校長
石丸 秀樹

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字プリントや計算ドリルなどを朝の活動時に行ってきたため、基礎的な力は身についてきている。 ○復習内容のプリントやタブレット端末などの利用の機会を多くもつことで、知識の再構築を行えた。 ●国語の総合的な力の弱さが見られる。前学年で学習した漢字の習熟が十分でなく、それらの言葉の意味を把握していないことが多い。語彙力や読解力が低いことも課題である。	・基本的な読み書き計算などの技能をしっかり身につけ、活用することができる。 ・本に親しむことで、語彙力を増やし、長い文章でも内容を理解できる。 ・身につけた知識を用いて課題を解決できるような主体性を培う。	①引き続き、前学年で学習した内容のプリントやタブレット端末などを利用して学習する機会を設ける。 ②全校で１年間に１０００冊を読むことを目標とし、実践する。 ③辞書を引かせたり、文章を読んで大事だと思う箇所には線を引かせたりする。 ④授業内に前時の授業復習を組み入れる。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○知識を体験的な学習活動に生かせる場面も増えてきた。 ●学習した知識を生かして考えたり、答えを導き出したりすることが難しく、「わからない」と諦めてしまうことが多い。そのため、自分の言葉で考えを発表することには消極的である。また、語彙が不足しており、相手意識をもって筋道を立てて説明することが苦手である。	・習得した知識を他の学習や場面でも活用できるようにする。 ・目的や相手に応じて適切に話をするができる。 ・自分と他の人の意見を比較して考える習慣を身につけることができる。	①ICT機器の効果的な活用方法について、ICT支援員とも連携して教職員の研修を深める。 ②身につけた知識を用いて課題を解決できる学習活動を増やす。 ③ホワイトボードやタブレット端末を用いた発表や話し合い活動をさせる。(オンラインも含め) ④全校での話し合い活動、集会、学級会などの活動を計画的に取り入れる。 ⑤「徳島版読解力」を生かして個々に応じた指導方法の工夫改善に努める。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題をこなし、パターン化された表現の練習等には、意欲的に取り組む。 ○朝のドリルや教科の学習はまじめに取り組む。 また、苦手なことにも前向きに取り組む児童が増えてきた。 ●読書に親しむ子どもは増えてきているが、全体的に十分とは言えず、家庭での読書習慣の定着が課題である。 ●できない、わからないが授業内に出てくると、粘り強く取り組みない様子も見られる。	・学習課題に進んで取り組み、学ぶ楽しさやできる喜びを感じ、自信をもつことができる。 ・自分の学習状況を振り返り、自分の課題を見つけ解決することができる。 ・読書に親しみ、家庭でも読書をする習慣を身につけることができる。 ・課題が見られた際に自分で調整して課題解決を目指すことができる。	①毎時間のめあてやまとめの書き方等、板書やノート指導について改善を図り、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。また、振り返りの時間を設定し、自己の学びを深めることができるようにする。 ②タブレット端末などを活用し、自ら課題を見つけて学習に取り組む機会を設ける。 ③毎週火曜日の朝の活動は、地域の方による読み聞かせや読書の時間にする。本を読んだ後や行事の後は、感想を学級や全校などで発表する機会を設ける。			

令和7年度 学力向上ロードマップ

